

甘藷の周年利用による肉豚の肥育試験

伊折秋好・山口俊彦
(長崎県総合農林センター)

IORI, A. and YAMAGUCHI, T.

Swine Fattening Experiment by Anniversary Utilization of Sweet Potato

1. 試験目的

農家養豚は自給飼料を高度に利用し、購入飼料価格の高騰による飼料費の節減をはかり肉豚を安価に生産することが必要である。そのため甘藷の利用価値を調査する。

2. 試験方法

(1) 供試豚 素豚8頭を対照区4頭、試験区4頭の2区に区分した。

第1表 供試豚明細

	番号	性	生年月日	血統	体重	産地
対照区	9	♀	38.6.1	父 中牧	16	當場
	11	♀	38.6.1	母 小菊姫	17	〃
	213	♀	38.6.6	父 プリンス	13	〃
	218	♀	38.6.6	母 ヨシタニ	14	〃
試験区	10	♀	38.6.1	父 中牧	15	當場
	12	♀	38.6.1	母 小菊姫	18	〃
	214	♀	38.6.6	父 プリンス	15	〃
	215	♀	38.6.6	母 ヨシタニ	13	〃

(2) 試験期間 昭和38年8月14日～1月14日

(3) 試験期の区分

予備期 生後61日～90日両区とも同じ

試験区 1期 90日～120日

2期 121日～165日

3期 166日～210日

対照区 1期 91日～150日

2期 151日～210日

(4) 試験飼料

飼料配合割合は第2表の通りで対照区は産肉能力検定飼料、試験区は高蛋白飼料に生甘藷を配合したものを給与した。

第2表 飼料配合割合及び栄養価(風乾比)

	期別	配合飼料	検定飼料	いも類	DCP	TDN
対照	1期	—	100	—	13.5	68
	2期	—	100	—	12.0	69
試験区	1期	70	—	30	14.0	65
	2期	55	—	45	11.6	67
	3期	30	—	70	7.6	71

(5) 飼料給与量

飼料の給与は産肉能力検定実施要領に従って給与した。

(6) 調査項目

両区について飼料の嗜好性、発育成績、飼料の消費量、飼料費、解体成績を調査した。

3. 飼養管理

(1) 供試豚は各区共に同一条件の豚房で広さは3m×3mで、1房当り4頭の群飼をした。

(2) 駆虫及び豚コレラ予防注射は予備期に行つた。

(3) 飼料給与は粉飼に約1/3量の水を打水し毎日6時30分、11時30分、16時30分の3回に等分給与した。

(4) 体重測定は10日に1回行つた。その他は一般の飼養管理を行つた。

4. 試験成績

第3表 体重測定表

(単位kg)

	番号	90日	120日	150日	180日	終了時
対照区	9	24	37	49	67	93
	11	30	46	60	75	98
	213	20	25	33	44	65
	218	22	28	36	44	65
試験区	10	27	37	50	66	85
	12	31	45	63	79	109
	214	22	31	40	49	67
	215	26	34	46	59	83

(2) 飼料の嗜好性

飼料の嗜好性は1期2期においては試験区がよく、対照区の方は嗜好の点において喰い込みが悪かつた。3期においては生甘藷70%の方が、喰い込みが悪かつた。

第4表 総合成績

項目	対照区				試験区			
	9	11	213	218	10	12	214	215
終了日令	210	210	205	205	210	210	205	205
全期間増体重	77	81	52	51	70	91	64	68
飼料要求率	4.0	3.8	5.9	6.0	4.3	3.3	5.7	4.5
飼料(配合)	308	308	308	308	147	147	147	147
消費量(甘藷)	—	—	—	—	141	141	141	141
絶対食体重	88.5	92.5	57.5	60.5	77.5	97.5	61.5	74.0
体重(冷)	67.2	69.4	41.8	45.0	55.5	71.4	44.2	53.8
肉歩留	70	69	66	69	66	67	66	67
シラシラ	8.6	7.0	11.6	9.8	9.5	10.6	10	11
シラシラ	0.9	1.2	2.8	5.9	1.6	1.9	2.4	2.4
巾 cm	35	35	29	30	35	35	32	32
と	9.4	9.2	7.9	7.9	8.9	9.5	7.5	8.7
背脂肪 cm	2.5	3.0	1.7	1.9	1.8	3.1	1.6	2.1
胸椎	15	15	14	14	15	15	15	15
内臓(kg)	12	12	6.5	8.0	10.3	14.0	9.0	10.5
肉質	筋繊維細脂肪の交雑良好				筋繊維少しあらい赤肉の色濃紅色			

(3) と殺解体成績

と殺成績については第4表のとおりで、と体の調査は、試験終了後24時間絶食し川棚と畜場でと殺解体したものを、東彼畜協連冷凍室で24時間放冷したものを産肉能力検定の規格により調査した。

(4) 収支計算 収支計算は第5表の通りである。

第5表 収支計算

項目	収 入		支 出		差引収入	
	番 号	枝肉量	販売価格	飼料代		子豚代
対 照 区	9	67.2	26,880	10,160	5,000	11,720
	11	69.2	27,760	10,160	5,000	12,600
	213	41.7	16,680	10,160	5,000	1,520
	218	45.0	18,220	10,160	5,000	2,840
	平 均	55.8	22,330	10,160	5,000	7,170
試 験 区	10	55.5	22,200	9,350	5,000	7,850
	12	71.4	28,560	9,350	5,000	14,210
	214	44.2	17,680	9,350	5,000	3,330
	215	53.8	21,520	9,350	5,000	7,170
		平 均	56.2	22,490	9,350	5,000

ただし枝肉kg当単価は400円。

総 括

(1) 素 豚

素豚は2腹の5日違いの子豚を各4頭あて8頭用いたが、今回の試験において2つの系統間に発育上著しい差がみとめられた。

(2) 飼料の嗜好性

前期においては試験区がよく、後期においては対照区の方の喰い込みが良かった。残食量はなかった。

(3) 発 育

発育については両区とも大差なかったが、増体量は

試験区の方がややよかつた。

(4) 飼料の消費量

対照区308kg, 試験区304kgで飼料要求率は対照区4.9 試験区4.5で両区ともあまり良くなかつた。

(5) 飼料費

対照区 10,160円, 試験区 9,350円で1頭当り試験区の方が810円少なかった。

(6) と 体 成 績

(イ) 枝肉歩留は対照区の方が試験区より歩留がよかつた。

(ロ) 背脂肪は両区とも大差なくむしろ対照区が厚かつたが全頭規格内の厚さであつた。

(ハ) 肉質は対照区の方が筋繊維は繊細で肉の色については、試験区の方が濃厚色を呈していた。脂肪の交雑状態は両区とも良かつた。

(7) 収支計算

1頭の平均収益は、対照区7,170円, 試験区8,140円で、試験区が970円多かつた。

(8) む す び

結論として、甘藷70%給与試験においては、増体重は良好であるが、枝肉歩留が悪くこの結果より考え、70%甘藷の給与量は経済的な給与の限界をこえていると推論される。又農家養豚としては、自給飼料の生産量に限度があるので、飼育頭数の増加を考慮し甘藷の経済的な給与の限界を今後検討したい。